

常務

期

大元



秘書電報

次長官宛

甲方參一電第七四八號

甲集團參謀長

昭和 一五、七、八
一五、〇〇、八
一五、五〇、者



第三十七師團一部編制改正要領同細則案中

左記ニ就中檢討ノ上實行ニ支障ナキヨウ措置セ

ラレ度

一、編制管理官ヲ第三十七師團長トスル時ハ獨立

山砲聯隊馬匹兵器器材編制改正ノ爲充用シ
 得ザルモノト考ヘラルルヲ以テ方面軍司令官又
 ハ第一軍司令官トスルカ然ラザレバ細則第一一
 條ニ於テ明瞭ニ獨立山砲聯隊兵器器材充用
 シ得ル如ク規定セラレ度

二細則第五條中日本馬特ニ馱馬ヲ内地ニ携行
 スルコトハ方面軍ノ現狀カ馱馬不足ノ實情ニ
 即シ困難ナルヲ以テ中止セラレ度

既^ニ現地部隊全部^ニ移管スル趣旨^ニ於テ改
編準備中ナリ

山砲馱馬以外ノ過剩馬中ヨリ所要ノ馬匹ヲ
内地又ハ關東軍^ニ移管スルコトハ全整理完
了ヲ俟ツテ希望ノ如ク處置スヘシ

三十榴三中隊存置スルコトハ絶對的希望ナル
ニ付實現セラレ度

四大隊^ニ山砲^ニ三中隊十榴^一中隊ノ混成スルコ

ト差支ナシ

甲方參電第七四號第三項中八ヲ一砲種

ホウシニ

トスルコトハ誤解ナルヲ以テ取消スニ付諒承アリ

度

(終)